

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500060	事業の開始年月日	平成25年10月1日	
		指定年月日	平成25年10月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ湯河原温々			
所在地	(〒259 -0301) 神奈川県足柄郡湯河原町中央2-8-3			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年10月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度のミモザ湯河原温々の理念は「安全とゆとりのある介護」スローガンは「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」をスタッフ全員で考えて実践しています。ご入居者様1人1人の思いや希望を取り入れて出来る限り寄り添う介護を目指しています。コロナ感染症の中予防接種2回目も無事に終了し予防対策も万全に行っています。ご家族のご協力の元、面会制限もご理解頂いています。施設内では季節を感じて頂けるように装飾やミニレクリエーションを行い、ミモザ通信を発行し掲示板やご家族に配布させて頂いています。体調管理面では往診医、訪問看護へ情報提供し、連携を取り合っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年9月22日	評価機関 評価決定日	令和3年10月14日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念の共有と実践

今年度の事業所の理念「安全とゆとりのある介護」は、スタッフ全員で考え、各フロアに掲示している。職員は、毎月のフロア会議や職場30分研修で、理念に沿い、利用者が1日を安全に楽しく過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。

◇充実した医療支援体制

月2回の協力医の訪問診療、24時間医療連携体制、看護師による健康管理、歯科医による治療など、利用者・家族が安心できる充実した医療支援体制がある。また、重度化した場合や終末期への対応は、医師・看護師・家族ときめ細かい連携をとり、利用者の支援をする体制がある。

【事業所が工夫している点】

◇職場30分研修による職員の質向上

年間計画に基づき毎月「職場30分研修」を行っている。認知症ケア、感染症予防、非常災害時対応、身体拘束および虐待防止などにつき、職員が輪番で講師を勤め、職員の質の向上と日常の業務運営に反映している。

◇コロナ禍における日常生活への工夫

コロナ禍で外出行事ができないため、事業所内の夏祭りなどのイベントは利用者の希望を取り入れ、職員と利用者が一緒に楽しめるようにして、刺激のある日常生活を維持できるよう工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		4, 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念「安全とゆとりのある介護」を念頭に置きスタッフ各自が近づける様に支援しています。	・今年度の事業所理念「安全とゆとりのある介護」をスタッフ全員で考え、各フロアに掲示している。 ・毎月のフロア会議や職場30分研修で、理念に沿い、利用者が1日を安全に楽しく過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し回覧板にて地域の状況を確認し、コロナ禍の中で出来る事を行っています。	・自治会に加入し、毎年夏祭りの行事や地域防災訓練に参加していたが、今年度も昨年に引き続き、コロナ禍のため中止している。 ・ボランティアによる楽器演奏、紙芝居、保育園園児との交流なども、今年度は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町役場や地域との連携を図る為に外の掲示板に施設の状況をミモザ通信を作成し毎月張り出している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナ禍の為に2ヶ月に1回ミモザの状況報告書を各役員に郵送している。その際にも何か助言や意見があればサービス向上の為に記載お願いしています。	・前々年度までは、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民が参加し、2か月ごとに開催していた。 ・コロナ禍のため、今年度も前年度に引き続き、経営状況をメンバーに郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は常に取り合いマスク、手袋などの支給を受け窓口に行き、情報共有しています。顔馴染みの関係も構築しています。	・町役場介護課と緊密に連携をとって、主手続きや利用者・運営について助言を受けている。コロナ対策用のマスク、手袋などの支給品を窓口に取りに行き、コロナ対応などの情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを徹底した研修やスタッフ会議を適宜開催している。身体拘束及び虐待防止の研修は年2回おこなっている。	・職員は年2回の研修で身体拘束および虐待防止について学び、3か月ごとの身体拘束適正化委員会で具体的な事例をもとに話し合っている。 ・職員は身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内や他施設での虐待防止をテーマに事例に基づき何が虐待になるかを職員に教育し自覚して頂き目に耳にしたことは見過ごさず報告し抱え込まない様にしていく。	・職員は年2回「身体拘束および虐待防止について」の研修を受け、何が虐待になるかを学んでいる。 ・職員は、利用者に対する虐待の兆候を見逃さないよう、お互いに注意を払い、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解をして頂くために成年後見人の働きを学ぶ機会を作り研修を行う。施設と後見人との連携を学び実践していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時に家族の不安や疑問が無いように説明ししっかり理解した上で書類を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族当から意見提案等があった場合は職員全員が真摯に受け止め納得のいく回答が出来る様に話し合う。状況報告書の返信用も同封している。	・家族の意見・要望は、日ごろから来訪時や、電話で聞いている。月末に利用者の状況をお便りで家族に報告し、「ご意見ご要望記入用紙」を同封して、意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会議や月2回のアロー委員会で運営に関する職員の意見を聞く機会を設ける。	・管理者は、毎月のフロアごとの会議や月2回のアロー委員会（管理者、職員3名）、個別面談で業務効率化の提案や意見・要望などを聞き、運営に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って就業出来る様に時間外勤務が無くスキル手当や環境整備手当を充実させて勤務の向上に向けて働けるようにしていく。	・職員の経験や技術、勤務態度などを定期的に評価し、給与に反映させている。 ・職員が希望する本社の研修には積極的に参加を認め、介護福祉士などの資格取得も奨励している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量がバラバラなので月に1回の30分研修を講師も職員が行っている。この研修は年間計画を立てて必要なテーマの元行っている。この他にも本社から施設へ出張研修を依頼して実施している。	・年間計画に基づき毎月「職場30分研修」を行っている。認知症ケア、感染症予防、非常災害時対応、身体拘束および虐待防止などにつき、職員が輪番で講師を勤め、職員の質の向上と日常の業務運営に反映させている。	スタッフが働くことに生きがいを持てるように、30分研修などを通じて職員研修を今後も継続することが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の同法人の施設との連携を図ったり、同サービスとの連絡を取り合いお互いの状況を報告して連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の場合はアセスメント基本情報をしっかり行い本人家族の要望を聞き取り、ケアプランを作成して同意して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する際、家族等が困っている事、不安な事、要望等を聞き出しここでのサービス内容を説明して不安を除くように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているのか、1番優先すべき問題を引き出し他サービスも利用して支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はおお客様です。職員はいつも念頭にこの言葉を置き対応し、支援していくようにします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も同様におお客様です。ご家族は面会も制限されている中、状況が知りたいと思っていますので月1回ミモザ通信と状況報告書を送らせていただいています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会制限が玄関先から窓越しになり厳しい状況になりましたがお顔は見せたいのでご理解頂いています。電話やお手紙なども増えてきました。	・家族や友人の来訪の際は歓迎し、ゆっくり過ごせるようにしている。現在はコロナ禍で、面会はできないが、電話や手紙などが増え、引き続き関係継続が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢化の状況でマイペースが好きな方難聴で会話が困難な方の間に立って職員が仲介役になり孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になった方に対しても家族や他施設との連携を取りつつ状況を把握出来る様にする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向に沿える様に担当者会議やスタッフ会議にかけて本人本位を心掛けて検討する。	・職員は利用者との会話を多く持つよう心がけ、特に散歩や入浴など、1対1で接する機会にはゆっくりと思いを聞いている。 ・意思疎通困難な利用者には、家族の情報や利用者本人の仕草や表情から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のいままでの生活歴や環境を把握し出来る限り寄り添い本人の意向に沿ったサービスを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の生活の過ごし方や心身状態をスタッフから聞き取り、把握に努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でチームケアを実践し、モニタリング及び担当者会議を開催して、介護計画を作成する。	・医師・訪問看護師の意見、本人・家族の意向、職員の意見、日常生活状況を確認して介護計画を作成している。 ・短期目標は3か月、長期目標は6か月、1年とし、状態変化に応じて、個別に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては事実を具体的に記載をし職員間で情報共有し計画作成、見直しが必要な場合は見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に於いてその時々生まれるニーズに対して既存のサービスに捉われない柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が活用できるよう行政や地域との連携を取りインフォーマルサービス等を利用している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と連携を取り、24時間連絡が取れ指示を仰ぐことができる。安心安全な生活が遅れる様に支援している。	・内科医の訪問診療が月2回、同医療機関看護師が毎週訪問し、24時間医療連携体制がある。 ・2か月ごとに皮膚科医、毎月の歯科医の訪問診療がある。 ・医師・看護師・薬剤師は完全予防対策防護衣で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調管理を日頃行い訪問看護師や看護職員（施設長）にも情報共有し、適切な医療行為が出来る様にする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、退院の際スムーズに安心して治療が出来る様に情報提供し退院サマリーを頂き注意事項を聞きカンファレンスを行い元の状態に早く戻れるようにする。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け本人、家族の意思を尊重し本人らしく迎えられるようにカンファレンスを繰り返し行い実践していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に重度化や終末期に向けた事業所の指針を本人と家族に説明している。 ・看取り方法を家族に説明し、終末期には、医師・看護師・家族と事業所が連携して支援する体制がある。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の連絡網やマニュアル作成し30分研修も行い職員全員に周知徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については地域のハザードマップに沿って避難場所や緊急連絡先などを全職員が周知し身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回夜間想定を含めて避難訓練を行っている。 ・11月に消防署の指導を得、消火設備の取り扱いや通報訓練を行った。 ・飲料水や食料品等、災害時の必需品リストを作成し、倉庫に備蓄して管理している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。認知症の教育を繰り返し行い職員に指導育成を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は30分研修で、接遇やプライバシーに関する研修を受け、利用者の尊厳を損ねない対応や言葉かけを心掛けている。 ・職員に、不適切な態度や言葉使い等が見られた場合は、管理者が個別に注意している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定が出来る様にまたそのことが実現出来る様に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい生活になるようにその人のペースに合わせた生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを尊重して自己選択して頂きおしゃれや好き嫌いを把握して納得できる様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が1番の楽しみと思うように見た目や味付けに工夫をし、食事の形態も個別対応している。ご利用者がお手伝いできる事はして頂き食事時間をより良い時間になるようにして頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の好みを把握し、誕生会やお楽しみの食事会に反映している。 ・利用者の状態に応じ、きざみ食、ミキサー食を提供している。 ・利用者はできる範囲で、お盆やテーブル拭きを手伝っている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー計算、塩分控えめな健康食を心掛けた管理栄養士の元、献立も作成されている。介護用スプーンで召し上がられる方もいる。水分量も摂取量を記入し不足の無いようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさずに行っている。気になる方や家族からの要望の方は訪問歯科も毎週受診されている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し時間ごとのトイレの声掛けやお便3日無い場合は往診医に報告指示を仰ぐ。	・排泄チェック表をもとにパターンを把握し、時間や利用者の仕草、様子から、そっと声掛けをして利用者に応じたトイレ誘導を支援している。 ・夜間は定時2回と必要に応じてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は水分食事の調整やマッサージ軽い体操等を試みて、定期的、不定期に下剤を内服している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては拒否がある方は無理強いしないで週2回の入浴を基本に臨機応変に対応している。体調不良の場合は清拭や部分浴に切り替えたりその場に応じて行っている。	・週に2回午前中の中の入浴を基本とし、入浴したがない利用者には無理強いせず、時間や日を変えて声掛けしている。 ・入浴を利用者と職員が1対1でゆっくり話せる良い機会と捉え大切にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごされる方、少しお昼寝される方その日の気分で休んでいます。安心して気持ちよくな群れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが使用している薬やその副作用を理解し、誤薬が無いように2重チェックし本人にも日にち名前確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回のお楽しみ会やレクリエーション等は全員参加で行っている。役割はやりたい人が行っている。声掛けして出来る人、やりたい人は殆ど把握している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は受診以外は出かけていない。お天気がいい日は玄関先の花壇を見たり、ミニトマトやキュウリを収穫したりして楽しんでいる。	・コロナ禍のため、以前のように外出はできないが、現在は天候の良い日には、利用者の体調に配慮し、玄関先で栽培した花を見ながら、外気浴をしている。	コロナ対応で散歩など外出の機会を得にくいですが、玄関先の外気浴や事業所内の歩行や体操などを継続し、気分転換と体調維持を今後も継続することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は殆どの方は家族や後見人である為、預り金は少ない。カット代や日用品くらい。本人が希望される場合はご家族に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方は聞き取りにくい場合は代弁したり、意思を伝えたりしている。手紙は本人に渡し代読したりしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の空調管理は職員が毎日温度調整している。時間時間に空気の入替ええお行い、照明も落ち着いた明るさに管理している。季節感を演出する為に季節の花や飾りつけを行い、居心地よく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> 共有空間は照明や換気に配慮して明るく心地よく過ごせるようにし、温湿度管理は職員が利用者の様子を見ながら、調整している。 季節ごとにクリスマス、ハロウィン、正月等の飾りつけをして、季節感を採り入れている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に座る場所が決まっておる。席替えしても元に戻ってしまう。自分の落ち着く居場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や仏壇や位牌を置かれている。使い慣れたもの、好みの物等思い思いのものが置かれている。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は使い慣れた家具や仏壇を持込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 職員による清掃が行き届き、室内は清潔で居心地よく過ごせるようになっており、職員と一緒に掃除をする利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで事務所から台所からリビングや廊下が見渡せるようになっている。安全安心して歩行出来る様に至る所に手すりが施されている。		

事業所名	湯河原温々
ユニット名	うめの家（2階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		4, 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念「安全とゆとりのある介護」を念頭に置きスタッフ各自が近づける様に支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し回覧板にて地域の状況を確認し、コロナ禍の中で出来る事を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町役場や地域との連携を図る為に外の掲示板に施設の状況をミモザ通信を作成し毎月張り出している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナ禍の為に2ヶ月に1回ミモザの状況報告書を各役員に郵送している。その際にも何か助言や意見があればサービス向上の為に記載お願いしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は常に取り合いマスク、手袋などの支給を受け窓口に取りに行き、情報共有しています。顔馴染みの関係も構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを徹底した研修やスタッフ会議を適宜開催している。身体拘束及び虐待防止の研修は年2回おこなっている。			
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内や他施設での虐待防止をテーマに事例に基づき何が虐待になるかを職員に教育し自覚して頂き目に耳にしたことは見過ごさず報告し抱え込まない様にしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解をして頂くために成年後見人の働きを学ぶ機会を作り研修を行う。施設と後見人との連携を学び実践していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時に家族の不安や疑問が無いように説明ししっかり理解した上で書類を交わしている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族当から意見提案等があった場合は職員全員が真摯に受け止め納得のいく回答が出来る様に話し合う。状況報告書の返信用も同封している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会議や月2回のアロー委員会で運営に関する職員の意見を聞く機会を設ける。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って就業出来る様に時間外勤務が無くスキル手当や環境整備手当を充実させて勤務の向上に向けて働けるようにしていく。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量がバラバラなので月に1回の30分研修を講師も職員が行っている。この研修は年間計画を立てて必要なテーマの元行っている。この他にも本社から施設へ出張研修を依頼して実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の同法人の施設との連携を図ったり、同サービスとの連絡を取り合いお互いの状況を報告して連携を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の場合はアセスメント基本情報をしっかり行い本人家族の要望を聞き取り、ケアプランを作成して同意して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する際、家族等が困っている事、不安な事、要望等を聞き出しここでのサービス内容を説明して不安を除くように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているのか、1番優先するべき問題を引き出し他サービスも利用して支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はおお客様です。職員はいつも念頭にこの言葉を置き対応し、支援していくようにします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も同様におお客様です。ご家族は面会も制限されている中、状況が知りたいと思っていますので月1回ミモザ通信と状況報告書を送らせていただいています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会制限が玄関先から窓越しになり厳しい状況になりましたがお顔は見せたいのでご理解頂いています。電話やお手紙なども増えてきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢化の状況でマイペースが好きな方難聴で会話が困難な方の間に立って職員が仲介役になり孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になった方に対しても家族や他施設との連携を取りつつ状況を把握出来る様にする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向に沿える様に担当者会議やスタッフ会議にかけて本人本位を心掛けて検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のいままでの生活歴や環境を把握し出来る限り寄り添い本人の意向に沿ったサービスを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の生活の過ごし方や心身状態をスタッフから聞き取り、把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員でチームケアを実践し、モニタリング及び担当者会議を開催して、介護計画を作成する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては事実を具体的に記載をし職員間で情報共有し計画作成、見直しが必要な場合は見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に於いてその時々生まれるニーズに対して既存のサービスに捉われない柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が活用できるよう行政や地域との連携を取りインフォーマルサービス等を利用している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と連携を取り、24時間連絡が取れ指示を仰ぐことができる。安心安全な生活が遅れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調管理を日頃行い訪問看護師や看護職員（施設長）にも情報共有し、適切な医療行為が出来る様にする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、退院の際スムーズに安心して治療が出来る様に情報提供し退院サマリーを頂き注意事項を聞きカンファレンスを行い元の状態に早く戻れるようにする。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け本人、家族の意思を尊重し本人らしく迎えられるようにカンファレンスを繰り返し行い実践していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の連絡網やマニュアル作成し30分研修も行い職員全員に周知徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については地域のハザードマップに沿って避難場所や緊急連絡先などを全職員が周知し身に付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。認知症の教育を繰り返し行い職員に指導育成を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定が出来る様にまたそのことが実現出来る様に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい生活になるようにその人のペースに合わせた生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを尊重して自己選択して頂きおしゃれや好き嫌いを把握して納得できる様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が1番の楽しみと思うように見た目や味付けに工夫をし、食事の形態も個別対応している。ご利用者がお手伝いできる事はして頂き食事時間をより良い時間になるようにして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー計算、塩分控えめな健康食を心掛けた管理栄養士の元、献立も作成されている。介護用スプーンで召し上がられる方もいる。水分量も摂取量を記入し不足の無いようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさずに行っている。気になる方や家族からの要望の方は訪問歯科も毎週受診されている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間ごとのトイレの声掛けやお便3日無い場合は往診医に報告指示を仰ぐ。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は水分食事の調整やマッサージ軽い体操等を試みて、定期的、不定期に下剤を内服している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては拒否がある方は無理強いしないで週2回の入浴を基本に臨機応変に対応している。体調不良の場合は清拭や部分浴に切り替えたりその場に応じて行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごされる方、少しお昼寝される方その日の気分で休んでいます。安心して気持ちよくな群れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが使用している薬やその副作用を理解し、誤薬が無いように2重チェックし本人にも日にち名前確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回のお楽しみ会やレクリエーション等は全員参加で行っている。役割はやりたい人が行っている。声掛けして出来る人、やりたい人は殆ど把握している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は受診以外は出かけていない。お天気がいい日は玄関先の花壇を見たり、ミニトマトやキュウリを収穫したりして楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は殆どの方は家族や後見人である為、預り金は少ない。カット代や日用品くらい。本人が希望される場合はご家族に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方は聞き取りにくい場合は代弁したり、意思を伝えたりしている。手紙は本人に渡し代読したりしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の空調管理は職員が毎日温度調整している。時間時間に空気の入替ええお行い、照明も落ち着いた明るさに管理している。季節感を演出する為に季節の花や飾りつけを行い、居心地よく過ごせている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に座る場所が決まっておる。席替えしても元に戻ってしまう。自分の落ち着く居場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や仏壇や位牌を置かれている。使い慣れたもの、好みの物等思い思いのものが置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで事務所から台所からリビングや廊下が見渡せるようになっている。安全安心して歩行出来る様に至る所に手すりが施されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ湯河原温々

作成日 令和3年10月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	湯河原温々施設の課題、問題点として毎年挙げられている。施設長との信頼関係を築く事が解決策である。	スタッフが働く事に生きがいを持つ。認知症の介護、支援の意味を理解する。	スタッフとの1on1面接を行う。スタッフの想いを聞き取る。人材育成の姿勢を見せる。共に成長していくことが必要である。	6ヶ月
2	49	コロナ禍で外出支援もままならない。ご利用者もスタッフもストレスが溜まっている。	安心安全に外出出来る様に支援したいと思います。	遠出は無理なので、玄関前の花壇や野菜の収穫を体験して頂いています。又、外出出来ない代わりに室内でのレクリエーションをマメに行って楽しんで頂いています。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。